



第73回 入学式 式辞

校庭の木々にも新芽が芽吹き、さわやかな春風が吹き抜ける今日の良き日、ここに第七十三回滋賀県立虎姫高等学校の入学式を挙行できますことは、私ども職員一同にとりまして大きな喜びでございます。

ご来賓の皆様には、ご多用の中、ご臨席を賜りありがとうございます。また、平素から本校に賜っておりますご厚情に対しまして、高壇からではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、ただいま入学を許可いたしました、二百三十七名の新入生の皆さん、入学おめでとう。本日ただいまから、皆さんは晴れて虎姫高等学校の生徒となりました。本校は、大正九年に旧制県立虎姫中学校として開校以来、今年で九十八年目を迎えます。

この間、湖北地方の伝統ある進学校として、地域の期待と信頼を集め、現在、二万人を越える卒業生を送り出してきました。卒業生の皆さんは、様々な分野で活躍されています。新入生の皆さんは、本校の一員となったことを誇りに思い、今日の喜びを忘れないで下さい。

また、本校は二年後の二十二十年に創立百周年を迎えます。皆さんは、そのとき三年生です。

本校の百年の歴史を締めくくり、次の百年へと繋ぐ学年です。一人一人が虎姫高校の歴史を作るのだという気概を持ち、充実した高校生活を送って頂きたいと思います。

本校には、創設以来受け継がれてきた校風があります。それは、「質実剛健」です。飾り気がなく誠実で、かつ心身共に健康で強くたくましくあれという意味です。この精神のもと、本校では、学習活動はもちろん、部活動、生徒会行事など、様々な活動を展開し、知徳体の調和のとれた人格形成を目指しています。また、本校校歌の三番に、「山には独立自尊の容、水には方円自在の力」とあります。山とは伊吹山、水は琵琶湖の水です。「伊吹山のように凜とした品格を備えて、誇りを持って生きていこう」、「琵琶湖の水は入れ物が四角ければ四角に、丸ければ丸くなるように、時代や状況の変化にしなやかに対応する柔軟性を持とう」という意味です。「質実剛健」「独立自尊」「方円自在」は、虎姫高校が創設以来大切にしてきた考え方です。それは、これからも変わりません。皆さんも、しっかり心に留めておいて下さい。

本校は、これらの伝統を引継ながら、二つの大きな事業に取り組んでいます。一つはスーパーサイエンスハイスクール、略してSSH、もう一つは、国際バカロレア、略してIBです。

SSHは文部科学省指定事業です。今年度で研究指定を受けて七年目になります。SSHの事業を通して、物事を探究する力や科学的な態度を養っていきます。IBは国際水準の教育プログラムです。単に知識を詰め込むのではなく、議論を通して考えを深めながら学習を進めていきます。IBを開始するのは二年後の入学生からですが、今進んでいる日本の教育改革の流れやSSHの考え方と共通することが多くあります。

今回、本校の伝統とSSH・IBの考え方を融合する形で教育目標と教育方針を見直しました。詳しくは、オリエンテーションの時に配布した「質実剛健」という冊子を見て下さい。本校では、その新しい教育目標と教育方針の下、21世紀を力強く生きぬくために必要な力の育成を目指し、教育活動を展開します。皆さんは、本校の授業や行事、部活動等に真摯に取り組んで下さい。そして、3年間で大きく成長してもらいたいと思います。

皆さんに、もう一つだけ話をします。

少し前に、久しぶりにテレビでマララ・ユスフザイさんのニュースを見ました。何年かぶりに生まれ故郷に帰ったというニュースでした。マララさんは、パキスタンの女性で、今から四年前、十七歳の時にノーベル平和賞を受賞し話題になりました。

マララさんは、十才までは、普通の生活をしていたのですが、十才の時、武装勢力「タリバン」が「女性は教育を受けてはいけない」「女性は自由に外出してはいけない」と女性に対する弾圧を始めたのです。マララさんはそれに反発して、「女性にも教育を受ける権利がある」とインターネットを通して世界中の人に呼びかけました。そして、世界中からマララさんを支援する動きが起こりました。

しかし、マララさんが十五才の時、事件が起こりました。タリバンが学校から下校中のマララさ

んを襲撃し、銃弾がマララさんの左の頭から肩に掛けて貫いたのです。マララさんは、奇跡的に命はとりとめました。

マララさんはその後こう語っています。「確かに、タリバンは私を撃った。でも、銃で撃てるのは『体』だけ。私の『夢』は銃では撃てない。わたしの信念を殺すこともできない。そして、女の子も男の子も、すべての子供が学校に通えるようにするための活動もやめさせることもできない。」マララさんは今も、「すべての子供が教育を受けられるように」と願い活動を続けています。

自分が「正しい夢」を持ち、「その夢を絶対実現したい」と思い行動すれば、できないことはないのだという「勇気」をマララさんから学ぶことができます。皆さんも、正しい大きな夢を持ち、それを絶対実現するのだという気持ちで、今日からの高校生活を送って欲しいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様にご挨拶申し上げます。これまで手塩にかけてこられましたお子様が、今、このように心身共に成長され、本校に入学されました。誠におめでとうございませぬ。お子様の教育は学校だけでできるものではございませぬ。学校と家庭がそれぞれの役割を分担し、協力しあって初めて素晴らしい教育が完成いたします。これからの三年間、保護者の皆様方の格別のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、入学生の本校での三カ年が有意義なものになりますよう祈念いたしまして、式辞いたします。

平成三十年四月九日

滋賀県立虎姫高等学校長 三上 保彦